

公共施設再配置（更新素案）についての地区説明会における質問及び回答（北中学校区・R6.8.21開催）

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
1	再配置の方向性	防災	小学校や地域生涯学習センターが広域避難所になっている地区があり、統合・複合化で施設まで遠くなることで避難所になりえない状況になるが、それはどう考えるか？	基本的に、廃校となった場所をどのように活用していくかということは今後皆さまと一緒に考えていきますので、そこにやはり避難所が必要だということになれば、避難所または避難場所として確保して使っていくこととなります。	
2	再配置の方向性	小中学校の再編	掛川市において各小中学校が耐震工事がされているが、小中一貫校になったどうなるのか。折角の安全設備は生かすべきではないか。	東海地震の危険性が叫ばれてきたため、基本的に県内の耐震化率は全国的にも高くなっています。ただ、建物の躯体はしっかりしていても、雨漏りや設備の不具合等、施設の使い勝手の点で問題があるということもありますので、新たな小中一貫校は新築する形を考えています。耐震化した既存の建物については、学校の跡地利用の段階で希望があれば検討していきます。	
3	再配置の方向性	個別施設の方向性	西郷小と倉真小がⅠ期で統合した場合、倉真地区学童保育所や倉真パンダひろばはⅢ期まで残るのか？	倉真地区学童保育所は地域で運営して頂いており、令和6年で39名の登録があります。一方、西郷小学校の学童保育所は6年生まで受け入れてきておらず、登録者が125人います。全員を受け入れることができる場所が現状ありませんので、西郷小学校と倉真小学校が統合した場合は、新たに場所を考えるか、もしくはそれぞれの場所で運営する可能性もあります。後者であれば倉真地区の学童保育所は残りますが、学校が移転するとなると送迎等の手段という課題が出てきます。	
4	再配置の方向性	小中学校の再編	学校再編に伴う関係で、北中学校区は南北に長く面積も広いが、通学を含めた交通網はどのように考えていますか？	通学の面では、国の基準で小学生は片道4km以上、中学生は片道6km以上の通学距離があると、スクールバスを出すこととなります。	
5	再配置の方向性	官民連携の推進	幼稚園等が運営が民間に渡された時に、今行政がかかわっているサービスより下がらないようにするためにはどうするか？	毎年、市の指導主事が全園に対して訪問していますので、サービスが低下しないように助言していきたいと思えます。市内の園は、かけがわ乳幼児教育未来学会に加入し、相互交流や連携を図り、教育・保育の質の向上のため実践研究に取り組んでいます。	
6	説明会	説明内容	これまでの再編実績で、①良かった事(メリット)、②悪かった事(デメリット)を今後の再編に向け列記することが求められる。例)城東こども園(佐東・土方・中)は3園が1園となった	各幼稚園・保育園で子どもが少なくなり集団活動ができなくなっていたため、親御さんから、なるべく早く統合してほしいという声も頂きました。集団活動の中で同じ年代の子どもたちと学べるのは、非常に大きなメリットだと思います。デメリットについて、今のところは親御さんから大きな課題になるような御意見は頂いていません。	
7	再配置の方向性	個別施設の方向性	三笠幼稚園はどうして民営化なのか？	延床面積を25%削減する案の中で、民間事業者任せられるものは任せたいと考えています。民間事業者が公立園より劣る保育をすることはありません。今のところは認定こども園化を含めて民間譲渡等を検討しています。譲渡する場合には公募を前提として考えています。	
8	再配置の方向性	個別施設の方向性	三笠幼稚園の譲渡先が決まらない場合はどうなるか？		
9	再配置の方向性	個別施設の方向性	大手門本体は？	今回の再配置は1箇所あたり200㎡以上の施設を対象とし、その総数が194施設となります。大手門は資料2には載っていませんが、掛川市のシンボルですので今後も維持してまいります。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
10	再配置の方向性	地域 コミュニティ	小学校は地域の拠点となるべき施設なので、安易な統合は地域の衰退につながる恐れがある。廃校となった地域のコミュニティをどのように維持発展させるのか？	学習センター等、学校を拠点として地域活動をしていますので、我々としても御質問いただいた内容は最も懸念しています。今後の再編で、地域拠点をどのように置いていくかという点も含め、地域の皆さまと議論していきたいと思っています。	
11	再配置の方向性	その他	施設の複合化を進めるにあたっては施設を新しく建設するのか、それとも古い建物を直すのか？	小中学校へ複合化をする場合は建て替える可能性が高いです。複合化のサービスによっては、新築・今の建物を活用する等、色々なパターンがありますので、必ずこの方法というのではなく、状況や内容を御説明しながら進めてまいります。	
12	再配置の方向性	跡地・空き施設	廃止された施設の活用方法は？ 処分する場合、適正な価格や方法等はどうに担保されるか？	まずは行政が他の目的に使用できるかどうか検討し、市役所として使わない方針になった場合は地域の皆さまへ御相談いたします。地域の方も使わないということであれば、最終的には公募をして民間へ売り渡す、という段階を踏んでいく予定でいます。処分する場合は不動産関係の評価をして頂いた中で、適正な価格で公募・売却を行います。	
13	検討の進め方	市民意見	統廃合については地域の意見要望を考慮してもらえ余地はあるのか？	実際の再配置の事業実施の際は、改めて地域の皆さまと御相談しながら進めていきたいと考えています。	
14	検討の進め方	情報共有	今後の統廃合については、時期を考慮して地域ごとに説明会等を開催してもらえるのか？	本日は現在考えられる方向性をお示ししました。各施設で今後取り組んでいく統廃合は、本日の説明内容で決まりではなく、これから実際に検討していくとお知らせしました。計画から実行に移す段階では事前に説明会を開き、皆さまとディスカッションして御意見頂きながら進めていきたいと考えています。	
15	説明会	説明内容	検討時期と耐用年数が同じであるが、実施時期は？	既に建物が傷んできているところもあるので、検討時期を前倒しにしながら安全に利用頂いている状況です。耐用年数が来た時に統合・複合化を実施できるよう、前もって検討しています。	
16	再配置の方向性	個別施設の方向性	各区の公会堂も対象となるのか？	各地区の公会堂は地区の財産になりますので、今回の再編の対象にはなりません。	
17	再配置の方向性	個別施設の方向性	将来的に安養寺のプールはどうなるのか？	資料2の「スポーツ施設の欄」で、東中学校区に安養寺運動公園があります。築32年で、施設を継続することを考えています。	
18	再配置の方向性	個別施設の方向性	ごみ焼却場（環境資源ギャラリー）の建て替えは？	今回の対象194施設は掛川市が持っている施設で、環境資源ギャラリーは菊川市と掛川市の財産であるため対象から外しています。ギャラリーの建替は、これから詳細な設計をしていきます。	
19	再配置の方向性	個別施設の方向性	「さんりーな」は1市6町の資産では？	1市6町のものから現在は掛川市の財産になりましたので、今回も掲載をしています。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
20	再配置の方向性	縮充	統合を検討後、建替はあるのか？	統合については耐用年数が到来する施設を中心に行うため、建替が基本となるかと思えます。ただ、サービスごとに統合する場合は既存施設を使いながらという可能性もあります。基本的に、建替時期が来ている施設は建替となります。	
21	再配置の方向性	交通手段	統合することで地元の利便性は大丈夫か。交通等考えているか。 老人が利用しやすいか	統合する事で施設が遠くなってしまいう御心配かと思えます。拠点が遠くなると、車を利用できない人はどうするのかという課題があります。学校再編では、児童生徒が利用するスクールバスの使用が可能かどうか検討する必要があります。また、地域ごとに施設を集約するとある程度需要が地域拠点に集まりますので、公共交通の維持に繋がれると考えています。それから公共施設へのアクセスに限らず、公共施設全体としてバスやデマンドタクシー、生活支援車だけでなく、AIや自動運転等の新技術の活用も含め、新たな公共交通のあり方を検討していきたいと思っています。	
22	再配置の方向性	官民連携の推進	資料1 P29～31の旧健康ふれあい館について、土地は記憶に誤りが無ければ無償譲渡したと思うが、総合的に判断して無償提供するメリットはあったのか？通常では考えられない対応をされたのではないか。対応後の結果は正しい判断であったのか。	条件は建物は無償でお譲りし、土地は無償で御貸しします、ただし一定期間温泉は続けて下さい、続けなければ土地はお返してください、いうものです。この条件は、利用者や地域の皆さまとの対話の中で、温泉は続けて欲しい、続けるべきという御意見を頂き、市としても温泉は続けたいが毎年1億円ほど市費を投入するのは厳しいという中で、民間事業者に上手くやって頂くためにはどうすべきかを検討しました。一般的な金額で建物をお貸しするのは厳しい状況でしたので、色々調べたり事業者へも聞いたりしながらこのような条件にすることで民間事業者に運営してもらう方法を取りました。メリットは、民間事業者運営頂ける環境ができたことです。通常では考えられない対応とありますが、我々としては市費を抑えながらサービスをよりよいものとしつつ温泉を続けていくには最適な選択だと判断しています。正しい判断だったかという結果については、もう少し年数が経たないと回答に難しい部分もありますが、現状としては民間事業者から10億弱投資頂き、ホテルやグランピングのコテージ等の施設も足して頂いて、経営は上向きになってきていますので、今の所は期待する効果が出ていると考えています。	
23	再配置の方向性	個別施設の方向性	さくら咲く学校と原泉地域生涯センターがI期統合を検討となっている。 説明では原泉地域生涯学習センターの耐用年数が来ているので、さくら咲く学校に統合すると説明されたが、どのように統合するのか？センターは壊し、さくら咲く学校を改修して統合するのか？	原泉地域生涯センターは木造で耐用年数30年という中で、現在40年経過しています。建物としては良い状態であり、当面はそのまま安全にお使い頂けると考えています。ただ、学校再編の時期まで持つかという難しいこともあるかもしれませんが、安全に使えなくなった段階でさくら咲く学校へ統合という表現にしています。さくら咲く学校の改修が必要かどうかについては皆さまと検討していきたいと思っていますが、学校内で場所が確保できれば地域生涯学習センターの機能を入れるという選択肢を含めて検討していきたいと思っています。いずれにしても現状まだ施設は使えますので、使えなくなった段階での表現となります。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
24	再配置の方向性	個別施設 の方向性	西郷ふくし館Ⅲ期廃止後をもう少し詳しく説明してほしい	西郷ふくし館の耐用年数を迎えるⅢ期は、学校再編の検討時期と同時期となります。学校再編の中で、各地域生涯学習センターや学童保育所も、建物をどうするか検討する予定です。北中学校区の施設はⅢ期に耐用年数を迎える施設が非常に多く、このタイミングで複合化を含めて考えていきたいと思っています。西郷ふくし館の重要な機能として学習センター機能、学童保育所機能があります。これらは無くしてしまうのではなく、他の施設、もしくは学校の中でといった様々な選択肢の中で、どこかで行っていきます。その時の検討によりますが「ふくし館」という形で残す必要は恐らくないのではないかという意味で「廃止」という表現になっています。皆さまと検討する中で、この機能はここでできない、等が出てきましたら、置き場所も含めて協議していきたいと考えています。	
25	再配置の方向性	検討時に 考慮すべきこと	統合・複合化した後に追加される新しいサービスについて、具体的な案は計画しているか？	新たなサービスは施設によって異なります。既存の事例としては、旧大東体育館と旧大須賀体育館の統合は、それぞれの体育館に耐震性がなく老朽化が進んでいたため解体し、新しく「し～すぼ」を造りました。し～すぼについては、まずは耐震性の確保、それからジム機能等も加え、新しく充実したスポーツ施設となりました。 認定こども園化については、幼稚園の需要が下がる一方で保育園の需要は伸び、施設が不足してきている状況の中で、施設をあわせることで保育需要を満たしながら新しい良い施設でサービスを提供することができ、これにより待機児童解消や子育て環境充実に繋がっています。 地域ごとに今後検討していきたいと申し上げた地域拠点化は、小中学校に地域生涯学習センター等を複合化する御提案で、先ほど事例でお伝えしたように、例えば各センターには持てなかった広めの部屋（ちょっとしたホールのようなもの）を、小中学校と統合することで持てるようになるかもしれません。家庭科室等も、学校と共有することで可能になります。あとは何より、色々な世代が集まることで常に緩やかな交流が生まれ、地域コミュニティに良い影響を与えるのではないかと考えております。新しいサービスや付加価値、メリットはこのように考えています。もちろん、施設が遠くなり歩いて行けなくなるといったデメリットもある中でどう考えるか、ということになってきますので、具体的に進めていく中で地域の皆さまと検討していきたいと思っています。	
26	再配置の方向性	30億円の 財源不足	資料1 P13にある将来更新費用73.9億円と、用意できる財源40億円はどのようにして見積もったか？	将来更新費用についてはNo. 28・29の回答を御参照ください。 用意できる財源について、現状で建物の修繕や改修に充てている費用の合計が約40億円になります。将来、高齢化の伸展等に併い他の経費も必要になる中で、確保できるとしても現状の40億円が限界であろうということで設定しています。もしこれを更に増やすとなると、他の経費やサービスを減らす必要が出てくるため、まずはこの40億円でできることを考えていきたいと思っています。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
27	説明会	説明内容	歳出の推移p. 9、高齢化による歳出が増と言われたが、表のどの部分かを知りたい	資料1 P9の右側が歳出のグラフになります。高齢化の伸展に伴い社会保障関係経費が増えているというお話をいたしました。社会保障関係経費に当たるのが「扶助費」で、太点線で囲っている2項目のうちの上の部分になります。平成23年で63億円だったところ、令和4年には103億円となっており、金額で40億円増、倍率でいうと1.6倍となります。こちらが高齢化の伸展により増えている経費ということになります。	
28	再配置の方向性	25%削減の目標設定	延床面積を25%削減という目標の根拠は何ですか？	資料1 P13で、将来更新費用が年間73.9億円、用意できる財源は年間40億円で、毎年差額が30億円程というお話をいたしました。今持っている施設をそのまま維持し、更新する時期がきたら全て建て替える、という将来更新費用が2068年までにどの位掛かるかという試算を行ったところ、建築物に対して総額1,928億円、インフラも含めて年間になると73.9億円になります。毎年不足する30億円をどう賄っていくかを考えた時、建物を少なくとも減らしていく必要があり、減らすことで更新費用・維持管理費用の削減に繋がります。これを現在の施設に対してどの程度行う必要があるかを計算した結果が25%削減という数字になります。なお、資料2に記載の方向性で全て進めたとすると、25%削減・30億円の差額を補うことができることとなります。	
29	再配置の方向性	25%削減の目標設定	基本方針の面積25%減の設定根拠は何か？		
30	再配置の方向性	個別施設の方向性	三笠幼稚園は今後保育園化と聞いているが、場所が少し山間地のため小学校等との連携は大丈夫か？	幼小中一貫でという御意見かと思えます。例えば南部地域では既に民間に園運営をお任せしていますが、学校との連携・交流は非常に良くやって頂いています。学校と園の先生がそれぞれ行き来し、子どもたちの交流もあるとのことですので、きちんと連携を深めていけば問題ないと考えています。	